

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

- ①東北地域における経済経営問題に関する教育研究活動の中心拠点として地域発展に貢献すべく、平成17年度に地域イノベーション研究センターを設立した。当センターが窓口となり、東北大学文科系部局としては最初に、寄附講座「中小企業政策」を平成18年後期より2年間の予定で受入れる。また、本センターは、平成18年6月に産学官連携推進本部に開設された高度技術経営人財キャリアセンターに協力する体制をとっている。
- ②会計大学院は、本学ISTUと共同して、会計大学院教育を目的とした「eラーニング・コンテンツ開発プロジェクト」を立ち上げ、会計大学院講義のためのeラーニング・コンテンツを開発している。コンテンツ開発完成時には、ISTUへ導入し該当科目講義の補完用として大学院生一般に供する計画である。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け (ISI citation など) など。

- ①平成17年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に、本会計大学院が他の会計大学院8校（平成18年度から新たに4校が参加）とともに申請した「会計大学院教育課程の国際水準への向上」が採択された。本プロジェクトは、認証評価機関としての第三者評価機構の設置を準備するとともに、各会計大学院の教育課程を認証評価に耐えうるものとし、また、国際的に通用する教育課程に向上させることを目的とし、併せて全国の会計大学院が共同して情報提供活動に取り組むものである。当会計大学院が拠点校であり、プロジェクト本部は本研究科に置かれている。
- ②平成18年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム」に、本会計大学院が青山学院大学会計大学院・甲南大学会計大学院とともに申請した「会計職業のための資格取得後教育課程の編成」が採択された。このプロジェクトの目標は、資格取得後教育で認証可能な授業科目を会計大学院で実験的に一部実施し、国際的に通用する知識を備えた高度会計職業人を養成することを目的とする教育課程を編成し、広く会計大学院の教育のあり方に資することである。当会計大学院が拠点校であり、プロジェクト本部は本研究科に置かれている。
- ③2004年に本学が実施した魯迅東北大学留学百周年事業を機に、大村泉・佃良彦が中心となり『魯迅と仙台』を出版した。本書は日本外務省及び北京魯迅博物の注目するところとなり、2005年9月に本書の中国語版出版を記念し、北京市において東北大学・在北京日本大使館・魯迅博物館主宰の国際シンポジウムが開催された。その際、『解剖学ノート』（魯迅が仙台医学専門学校に留学していた1904年9月－1906年3月に作成したノートで中国国家一級文物（国宝））の複製が同博物館から東北大学に寄贈された。平成18－20年度科研費により、本ノートの翻刻作業を通じ、明治期における日本およびアジア諸国への西洋医学の普及、魯迅と彼の師藤野巖九郎の関係を解明するプロジェクトを、東北大学関係者、医学史研究者、中国における魯迅研究者と共同して進めている。